



孝明天皇
あに甲斐守
武花望の系
茂り合茂り合
まひすき

徳川慶喜
民のため
いやり身
墨染の袖

辨内侍
秋きも七ツ
露たたり
何かせまじ

吉村寅太郎
秋あけい
我討て見よ

松平容保
見夢
若松に
田五の里に
伏して

一來法師
見渡せし
色づく敵
本の業武者
秋も待たて

兒島半正
益監雄
妻やふ
何んや
何のたつたせん

関遠
香も
かすに
梢も
苔のいたる

名如長年
味も
志を
吉里の籠も
了らぬ

菅公
宿の梅
君かす
かたう見

陸軍少将中村寛
美代よ
玉民の志
かすとい
思ふす

有村治左門
くかか
益良雄が
思ひ

丹伊直粥
了らぬ
凡におい
姿を
岸の若柳

小野寺重内
ふかう
花を
身ふらぬ

源実朝
武士の
矢ふ
たに籠手

江藤新平
後を
志のり
速ふ心は
たの君のため

貞木和泉守
冬や
心せし
かの子
了らぬ

平望五臣
いや
梅も
志月
何んや

平忠度
白水に
かのは
山梅

小松重盛
声よ
秋の風
暮る

齊藤孝次郎
木
咲を見
世の人

楠正成
氷の
深き
心に

井條氏康
夕日
敵を
か津浦
里見

佐々成政
名に
哀れ
去り

北畠信雄
夏
水ぬ
思ふ



近衛忠熙
夢しよあ大か心
人言まの
蒙吉のつかい
斬り一時宗

徳川齊昭
孫生ふあし
敵河らむ
いで物見せ
戌夫の

官女玉蟲
吉世もやも
初夜時ふらぬ
乃ふもと 見
ふと収や、 哉

松平定信
降リ代籠
厚倉 夜半の
重収て 敷

南八郎
議論より実をり
急事武士
國の大事を
よすに見く鹿

妓王
萌ふも 括り
望辺の草
秋に遇て果つ

護良親王
琵琶の音も
昔にの
ありの流川の
流り水音

林子平
子平
親あふ 妻平
死にたくもふし

北條時頼
いとた
思いためてか
頼む 我心
まよき

野村望左衛門
消えぬ
もにたちも 世の姿
奴危り火乃か

安部宗任
我々の大
梅のよ
何といふ 見つれ

梁川星巖
か後川の
流れも
あふた
濁れり世とい

武田耕雲齋
赤心薄紅葉
せは
恥し
さうりて

蒲生君平
比叡の心見
あをれ
今日九重の
かすたり収え

僧月照
立心
未をか
予矢や
一筋に

梅田源治郎
君の代に思ふ心
一筋に我身あり
たもをさり見

源光國
た見れい水會
何のとも
是にのみ
我思

戸原慈明
ぬも 雪おに木
ふそ
谷か
人の目

毛利元就
まの柳の糸より
そのか
た
あ

源義家
道もせ
吹風そ
切末の

熊澤蕃山
中し東の
下より
ま
ら

源三位頼政
身の
埋木の
ふ

高野七英
嘆の
嘆
あ

西行法師
鴨立
秋の
夕暮 知られ

桶千蔵
手ま
杖に
ま



宗良親王
 尋ねても今も
 誰か三まゆの
 名の首を我に
 語りむ

田中河内前
 啼く声なき
 ぬさめにも
 ほくすす
 思ふ此心

水戸烈公
 世にあらぬ
 函たての神り始
 心せよ浪のよす

頼三樹三郎
 手かばいん君の代
 思ふ正真心
 深からりあう
 後夜兵衛尉守
 姿人五月暗
 見す乃部公
 物かえ

益田弾正
 今さら子何あや
 空降り

間喜兵衛
 都鳥 恥
 夫夫乃

老女村
 我家の雨あられ
 音もす

高山彦九郎
 我を人し回心
 玉のけの
 本多素行
 あつて
 あつて
 くもつ

上杉録信
 武夫の鏡の
 枕の初声

豊臣秀吉
 戦の

久坂義助
 不と
 血ふ
 明

國司信濃
 収
 逢
 佛
 思
 我身

浪辺葦山
 親の心
 麻

鞠 繪
 幼
 つ

長尾郁三郎
 君
 思

高枚晋作
 志
 志
 藤田東湖
 見
 心
 月影
 秋

吉田松陰
 花
 人

兒島善臣母
 思
 別

佐野武之助
 大

高橋愛諸
 涙
 藤田益子
 神
 海



三條西中納言季知
 何し田鶴乃
 声もも空を
 穿ちや
 雲井の庭や
 すいあけ

静
 吉野の峰のこら
 入りに人の
 跡が戀

目下部信政
 照了日下所
 ささきた水乃わたり
 何りといりり
 おろり

河野通植
 葵れてもま
 妻ぬらん我心
 志のつたもれ等
 妻置るとり

鯉淵冷陳
 引もや
 大如魂
 君かため思を
 ちり持す

錦小頼徳朝臣
 果さるる
 三十路の夢
 さめに
 赤買の夜の月

藤原國幹
 情えて于海の
 代は月見か
 よせていか
 名浪も

小松帯刀
 秋をた、ちり
 しのふの年代の
 錦木乃も
 さしき葉は

入江弘毅
 後乃世も
 昔て
 物たもよ
 月がよ

山内豊信
 妻ふかく
 ちりよ
 後の木の
 えよ

川上彌一
 梅もさ
 さきめ
 色も香もあ

赤川宗
 又して月見
 らに思ふ
 つか屍の上
 照るや

澤水正宣嘉郷
 誠のほか世の人の
 いあらつと
 思ふ多

前左大臣島津光
 折ふれて
 思ひ
 同

僧赤珠
 かりのせに
 きほれ
 心も赤
 大如魂

平田篤胤
 これもあり
 人にか
 人のよ
 皮着ると

天障夫人
 深く思ひ
 かか
 薩

寺島昌昭
 此の道
 只一節の
 や

榎本武揚
 兄の沖
 むか
 秋の夜
 の月

林田貞堅
 糸糸
 剣を
 頼ぬ

安部貞任
 破れ
 昨日
 哀れ衣川

桐野利秋
 嘆
 水も
 風

西郷隆盛
 雲
 天の逆
 夕日
 花

勝海舟
 ありと
 ぬ
 子
 碇

鍋島直大
 皇軍
 海の内
 と



阿ふに甲斐
武蔵坐
の京

志のぶの
目尻に
すく染の袖

七夕
つめれ
何をわす
まじ

秋討太刀
の舞をかり
を見よ

田舎への
里
伏して
はしるふ

秋をも
また
太刀尻
にちる

益
身は
あは
雄乃

ふのり
く津水
ふもろ
く

吉望の
瀧も
浪や
くふら

かき
かへり
見や
まてに
や

美代
必民の
よふ
に

玉のため
思ふ
太刀

姿をうつ
山岸の
春柳

猶
暮あな
まよ
年の

何れ
奈須の
し
の京

速ふ
君の
ため

母れ
思ふ

何にくら
喜目
を

昔
山極
哉

声
秋の風
かな

た
比久良
鳥

心
あや
う
人

の里
か津浦
夕日あが

哀れ
春の浦浪

夏
水
あ
か



蒙古の
新皇 時宗
つかひ

いっせか
秋に
果うは
過る

大名人
何と云
らん

我身あ
りとも
木もも
うらけ

妻うらや
まだぬ
ける身

ぬむり
孫生ふこの
きほに

あいの
流川乃
瀬の
お音

流れも
結川
の水

我思
いまま
足に
あな

身のお
果
哀れ
けれ

ぬむり
ふもとあり
吉字

死にたも
も
あ
ふ

ちらて
あ
恥
幾我

平に
谷
松

嘆
こころ
文ハ

重ぬり
あられ
をが
写く

頼む
心
あ

今日
かす
たらぬ

た
を
あ

鴨立
の
う

國の
大
見
馬鹿

年
い
安
か

立
か
心
れ

道
心
揺
か

か
心
見
か



花の音を
我に詠
らむ

変了世に
名の
よきも

枕に近
初丁の

親の心を
わがたよ

此方の世
かへり
はるまじ

雲思ふ
此れ何に
は

耻あり
知了や
知了すや

戦
のとき
をても

ふと涙も
せうり
え

別れあり
うまか
まかに

浪のこ
よす
世に
何れは

我家へ
音も
了水と

月より外
知人
おし

春に
おいか
ひややり

大如魂
おどた
お

深から
しかり
志し

玉の
か
響る

清きり
か
思ふ

春に
おいか
おし

涙に
おいか
おし

姿
人
見す
物かえ

くもりぬ
はせり
来ぬ

乱
おし
秋のよに

墨田
秋の
乃

阿
おし
裁



雲井の
なや
すかよえ

入り 舞
戀 人
り

心せ
ま新
照る日

志の
たを丸等
つと
とち
まて

引
大和魂

赤官笑の
夏の夜
の月

消え
月を
見
我
子
跡

ちり
糸代
の
錦
を
り

月
物
た
ま
ま
む
ま
む
ま
む

目
色
下
え
ふ
と
ぬ

色も香
こ
こ
こ
こ
こ
こ
こ
こ
こ
こ

いつか
た
照
る
屍
の
や
や
の

誠のほ
か
の
思
ふ
と
思
ふ

折
ふ
思
い
い
い
い
い
い
い
い

心
は
赤
大
如
飛

何らぬ
人の皮
敷
の

身と
け
か
か
か
か
か
か
か
か
か

只
一
飛
や
ま
せ
れ

見
中
秋
の
月

糸
時
た
け
に
け
に

破れ
す
の
ぼ
え

ワ
風
や
ふ
さ
さ
さ

夕
月
ま
む
ま
む
ま
む
ま
む

漂
ふ
お
の
い
ら
す
も

う
の
ぬ
外
に
い
ら
す
に
見